

## 前立腺がんの放射線治療

前立腺がんに対する放射線療法には、放射性物質を前立腺に埋め込む組織内照射(小線源療法)と、身体の外から放射線を当てる外照射があります。組織内照射は、奈良県内では奈良医大付属病院で施行可能です。当院では平成28年1月に放射線治療棟が竣工し、外照射による治療を開始しました。

外照射による前立腺がん治療には、さまざまなものがあります。まずは、手術を避けて根治をめざす放射線治療があります。照射機器と技術の進歩により、前立腺へ高線量を照射できるようになり、手術に負けない治療効果があります。外照射単独の治療だけでなく、組織内照射の後に外照射を追加する治療法もあります。また、がんが前立腺被膜を超えている局所浸潤がんなど、手術では再発の可能性が高い場合には、ホルモン療法と併用して外照射を行うことが有効と考えられています。

その他に、前立腺全摘出術を受けた後にPSA値が上昇するPSA再発に対しても、手術部位に照射することで再発を抑えることができます。

また、ホルモン療法の効果が不良でPSA値が上昇した場合や、前立腺がんによる血尿が悪化した場合にも、前立腺に照射することがあります。骨転移に対しても外照射を行い、痛みの緩和や骨折予防を行います。

当院で、前立腺がんに関連した外照射を平成28年の1年間で42名の患者さんが受けました。根治的治療が24名、組織内照射の後に外照射を追加したのが1名、局所浸潤がんが4名、術後のPSA再発は9名、血尿などの改善目的には3名、骨転移への治療は1名でした。本年も昨年同様に治療を行っています。

以上のように、外照射は有効な治療法です。照射中は頻尿や排便時痛などの副作用が生じますが、照射後には軽快します。照射後1年以降に直腸出血や血尿などの晩期副作用が生じることもありますが、20人に1人程度の割合です。治療にあたっては、放射線治療科の専門医の診察をし、十分な説明の後に治療を行っています。

副院長、泌尿器科部長 仲川嘉紀